

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターこぐま園		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 2日		2025年 12月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	210名	(回答者数) 170名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 2日		2025年 12月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 24名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に合わせた支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の得意、不得意や学習スタイルを評価し、お子さんにあった支援を実施している。</li> <li>一目見てわかるよう、視覚支援を取り入れ、自分で確認し、いろいろな場面で使えるようにしている。</li> <li>コミュニケーションが取りやすくなるような支援(PECSなど)を取り入れている。</li> <li>以前から言語聴覚士はいたが、今年度より作業療法士が加わり、より専門的な支援を行えるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も研修や交流会などに積極的に参加し、職員のスキルアップにつなげて、よりよい支援ができるようにしていく。</li> </ul>
2	保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回療育の終わりにお子さんの様子や特性を保護者と共有している。</li> <li>保護者グループを実施し、助言や学習会、就園や就学に向けての情報提供を行い、保護者からの相談や質問にも適時対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルは全ての保護者さんに簡易版を配布して周知を行った。引き続き、ホームページや掲示物などを通して広く周知していきたい。</li> </ul>
3	環境・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年1月にCOCO・てらす3階に移転し、設備が新しくなり、過ごしやすくなった。</li> <li>どこで何をするのがわかりやすいよう、活動ごとに部屋を変えている。</li> <li>玄関が狭いため、療育時間をずらして混雑しすぎないように対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育室が限られているため、部屋の使い方を工夫するなど、引き続き、有効なスペースの使い方を考えていきたい。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者グループの部屋にホームページのお知らせを掲示していたが、浸透しきっていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロビーだけでなく、各保護者グループの部屋にもQRコードを掲示し、より身近に感じてもらえるようにしていく。</li> <li>避難訓練の様子も玄関に提示するようにして周知を行う。</li> </ul>
2	家族の支援(きょうだいへの支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>きょうだいの相談には対応しているが、イベント等の開催はしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントの開催は難しいが、夏祭りやクリスマス会などの参加可能な活動は引き続き、きょうだい児も一緒に参加できるようにしていく。</li> <li>今後もきょうだいや家族についての相談は随時実施していきたい。</li> </ul>
3	保育園や幼稚園などほかのこどもとの交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>こぐま園の形態では交流や連携が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こういった形であれば可能かを今後も継続して検討していく。</li> </ul>